

2023年3月期 決算説明会資料

2023年5月30日

鉦研工業株式会社
代表取締役社長 木山隆二郎





目次

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2023年3月期決算概要
4. 2024年3月期業績予想
5. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の進捗
6. 中期経営計画最終2025年度見込

1. 会社概要

2. 事業内容

3. 2023年3月期決算概要

4. 2024年3月期業績予想

5. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の進捗

6. 中期経営計画最終2025年度見込

項目	内容
会社名(英語表記)	鉦研工業株式会社 (KOKEN BORING MACHINE CO.,LTD.)
設立年月日	1947年10月16日
本社所在地	東京都豊島区高田2丁目17番22号
決算	3月
資本金	11億6,541万円
上場市場	東証スタンダード市場
代表取締役社長	木山 隆二郎
社員数	連結 314名(2023年3月末／臨時雇用者を除く)
事業内容	ボーリング機器製造・販売及び関連工事施工等
連結子会社	構造工事株式会社、株式会社クリステンセン・マイカイ

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2023年3月期決算概要
4. 2024年3月期業績予想
5. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の進捗
6. 中期経営計画最終2025年度見込

1. 各種ボーリング・グラウト機器製造・販売

建設事業計画の立案から建設完成までの様々な段階でボーリング装置やグラウト機器が使用されます。地質調査や地盤改良工事、災害防止工事、トンネルの掘さく現場から、深海から南極まで、鉦研工業の製品は様々な場所と分野で活躍を続けています。

2. エンジニアリング・工事施工

ボーリングマシンのトップメーカーであることを最大限に活かし、独自の機械、独自の工法を駆使し、トンネル掘削の先進調査ボーリング、温泉・地下水掘削、直径6mの立坑レイズボーリングなどを展開しています。

地下開発の
エンジニアリング、
施工

ボーリングマシンの
トップメーカー

KOKENのボーリング機器はロータリーパーカッションドリルを中心に、ボーリング工事に必要な各種機器やグラウト工事のためのバッチャープラントなどを製造販売しています。

- ① 全油圧式ロータリーパーカッションドリル
- ② ボーリング/グラウトポンプ
- ③ 全自動バッチャープラント
- ④ 各種計測機器

全油圧式ロータリーパーカッションドリル
アロードリル
RPD-180C



全油圧式ロータリーパーカッションドリル
アロードリル
RPD-75SL-R2-DFC



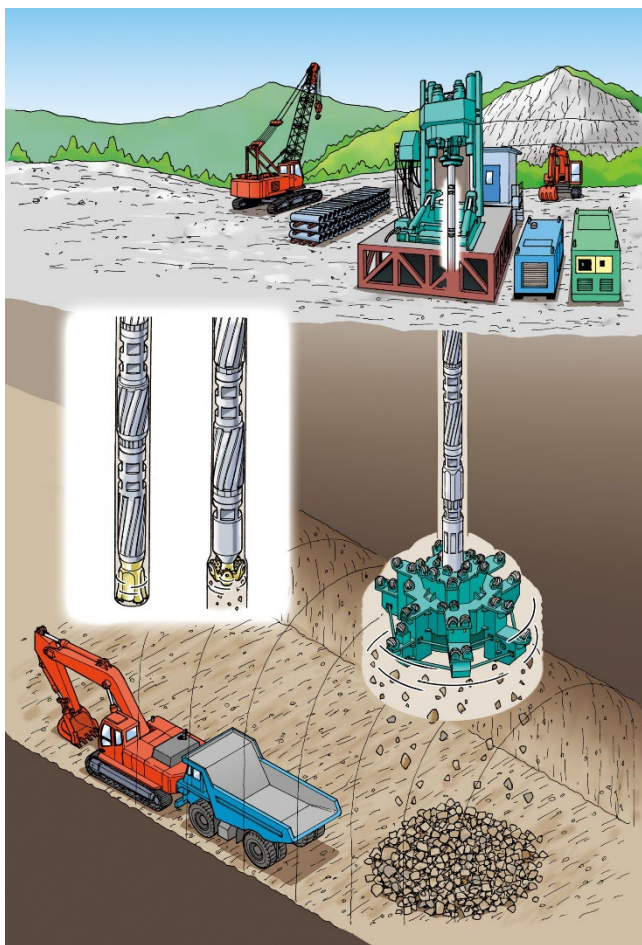
全自動バッチャープラント
KMP(A)VM1800W-39



ボーリング/グラウトポンプ
MG-20AFV

KOKENの施工エンジニアリングは専用機器をつかった独自工法が特徴です。

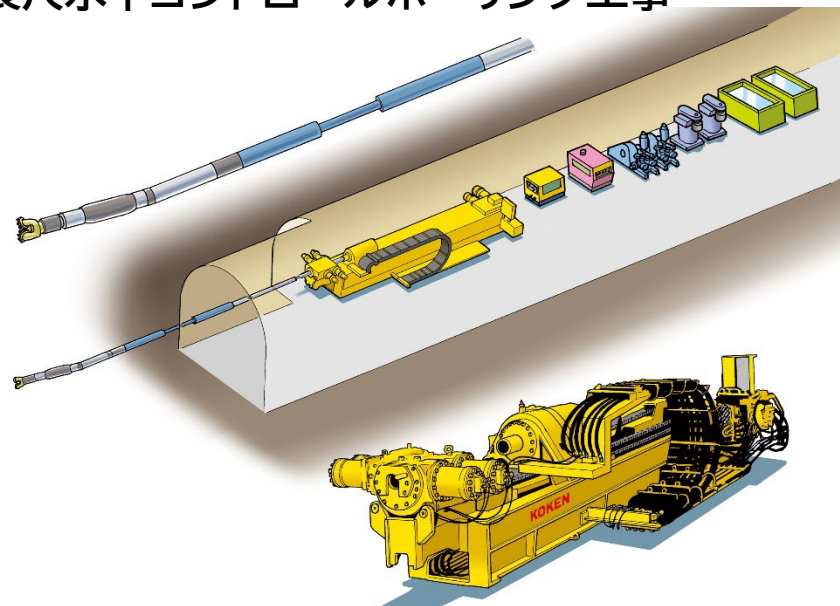
大口径岩盤掘削工事



PSワイヤラインによるトンネル前方調査工事



長尺水平コントロールボーリング工事



このONE & ONLYの技術とノウハウで工事施工業界で独自の地位を築いています。

温泉掘削工事



深層地下水活用事業



構造工事株式会社

技術力と情熱を新世紀へ。土木建築フィールドで展開する多彩な工事内容。

仮設アンカー工事

残置式



除去式



永久アンカー工事



浮き上がり防止アンカー工事

建築構造物の浮き上がり・転倒防止等工法で、建築評定センターの認定を得た確実なアンカー工法です。



特殊アンカー工事

緩い地盤に対して地盤改良を行い、アンカーと一体化し、高耐力を発揮します。敷地境界等の制限がある場合に有効です。



株式会社クリステンセン・マイカイ

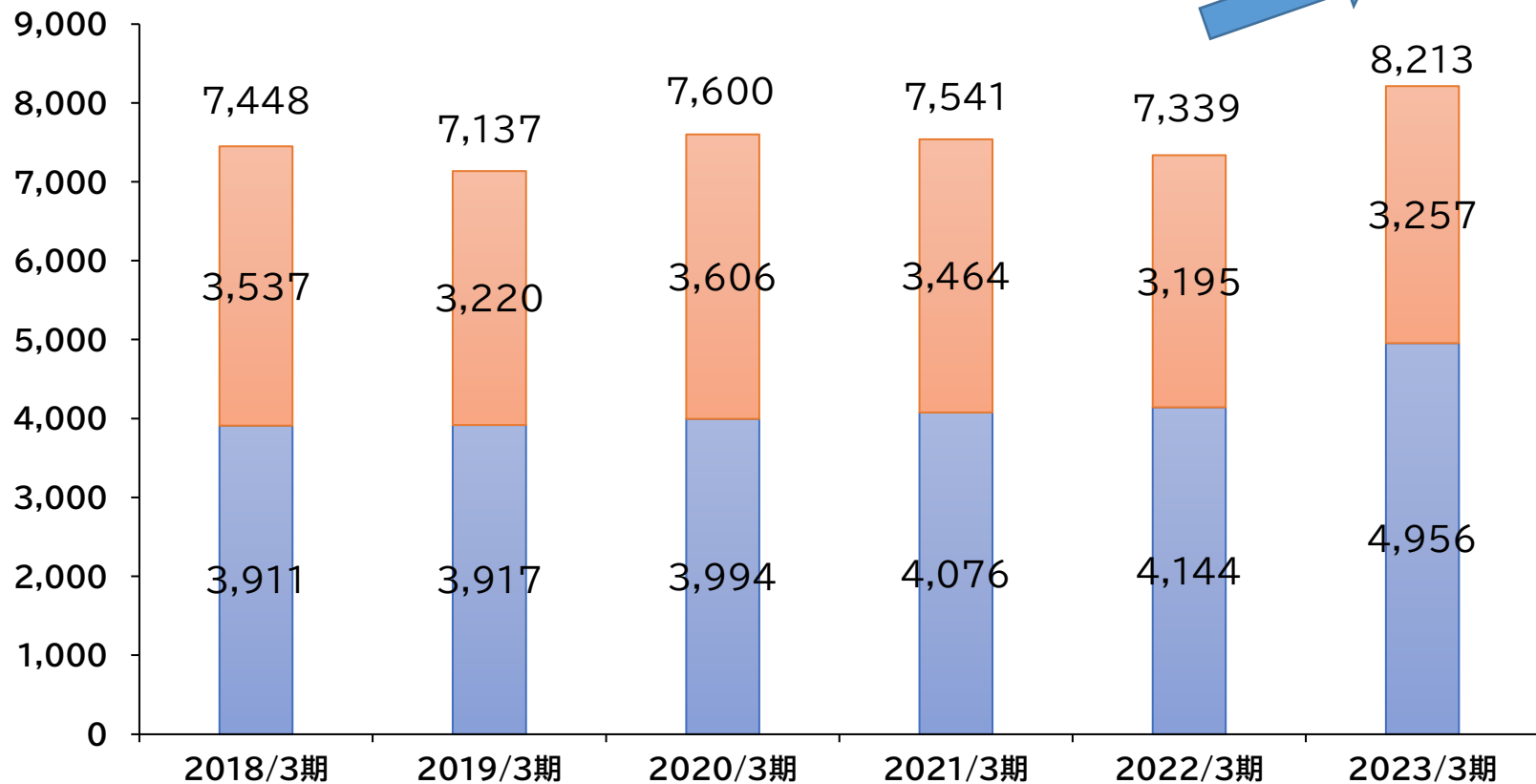
株式会社クリステンセン・マイカイのM&A狙い「鉋研の得意とする都市土木ボーリング市場とクリステンセン・マイカイ社の得意とする地盤調査ボーリング市場の相乗効果を狙う」



1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2023年3月期決算概要
4. 2024年3月期業績予想
5. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の進捗
6. 中期経営計画最終2025年度見込

2023年3月期についてはクリステンセン・マイカイ社の4か月間の売上高も6億円寄与して売上高は82億円と増収 クリステンセン・マイカイ社除く売上高も76億円と2億円の増収

売上高(百万円)



■ ボーリング機器

■ 工事施工

- 売上高は増加も原材料の高騰による原価率悪化を主因に営業利益は18.7%減少し
261百万円を計上
- 当期純利益※は185百万円

単位:百万円

	2021/3期	2022/3期	前期比	2023/3期	前期比増減	
売上高	7,541	7,339	▲201	8,213	873	11.9%
売上原価 (原価率)	5,506 (73.0%)	5,265 (71.7%)	▲240 (▲1.3pt)	6,036※1 (73.5%)	770 (1.8pt)	14.6%
売上総利益	2,034	2,073	38	2,177	103	5.0%
販売費管理費	1,774	1,752	▲21	1,915	163	9.3%
営業利益	260	321	60	261	▲60	▲18.7%
営業外損益	▲83	▲11	72	▲104	▲93	—
経常利益	177	310	133	157	▲153	▲49.4%
特別損益	948	▲4	▲953	118	122	—
法人税等	283	10	▲272	90	80	785.4%
非支配株主利益	6	2	▲4	▲1	▲3	—
当期純利益※2	835	293	▲542	185	▲107	▲36.6%
ROE	19.6%	6.4%	▲13.2pt	4.0%	—	▲2.4pt

※1 伊勢原工場 新規償却費 約130百万円含む

※2 当期純利益:親会社株主に帰属する当期純利益

決算概要－受注状況(受注高・受注残高)

■ 受注高:2023年3月期実績 8,456百万円(前期比1,268百万円増加)

▶ ボーリング機器:4,932百万円(610百万円増加)

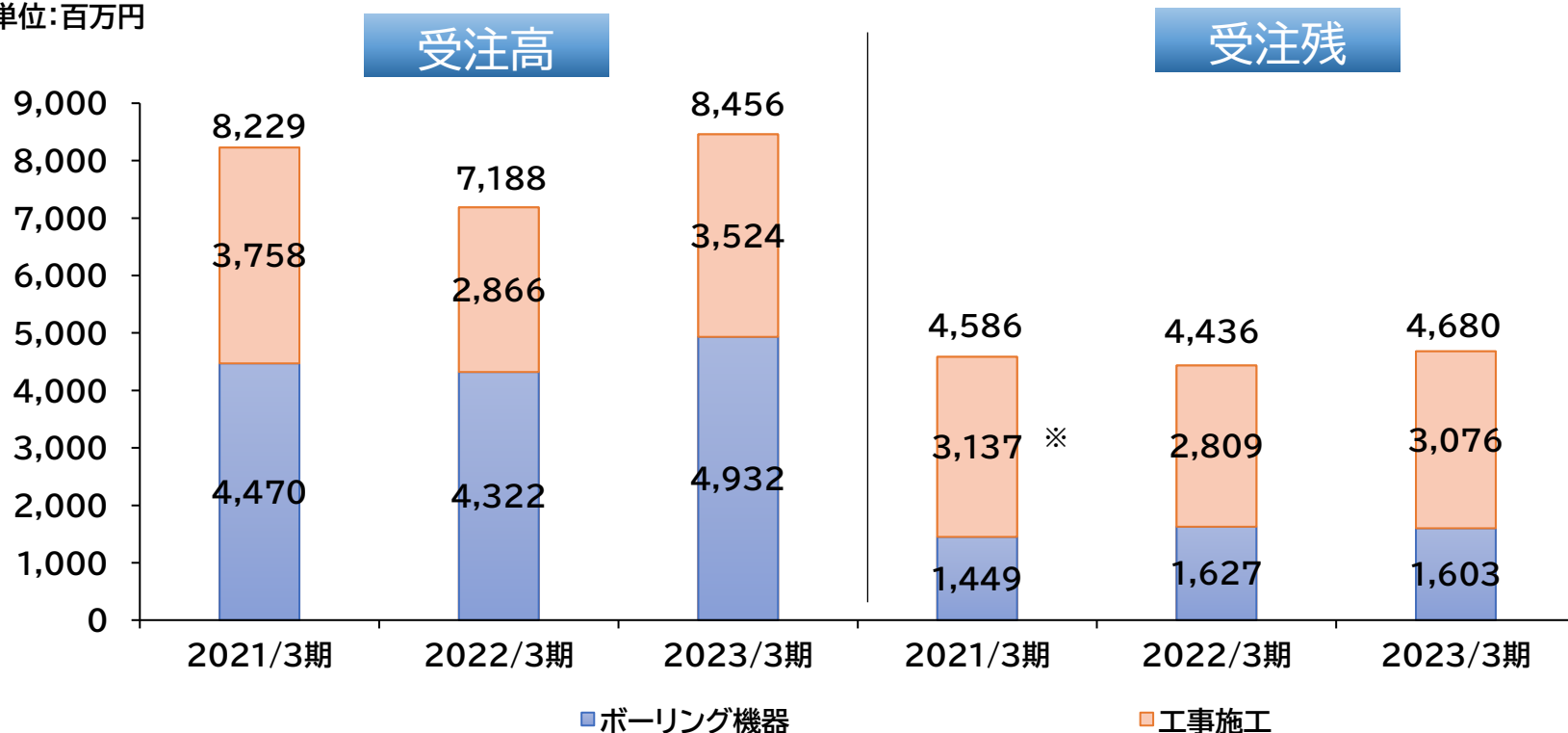
▶ 工事施工: 3,524百万円(658百万円増加)

■ 受注残:2023年3月期実績 4,680百万円(前期比243百万円増加)

ボーリング機器については受注高で、ウクライナ危機の長期化等により納期長期化があったものの仕入部品調達が回復傾向にあり受注高は足元回復傾向

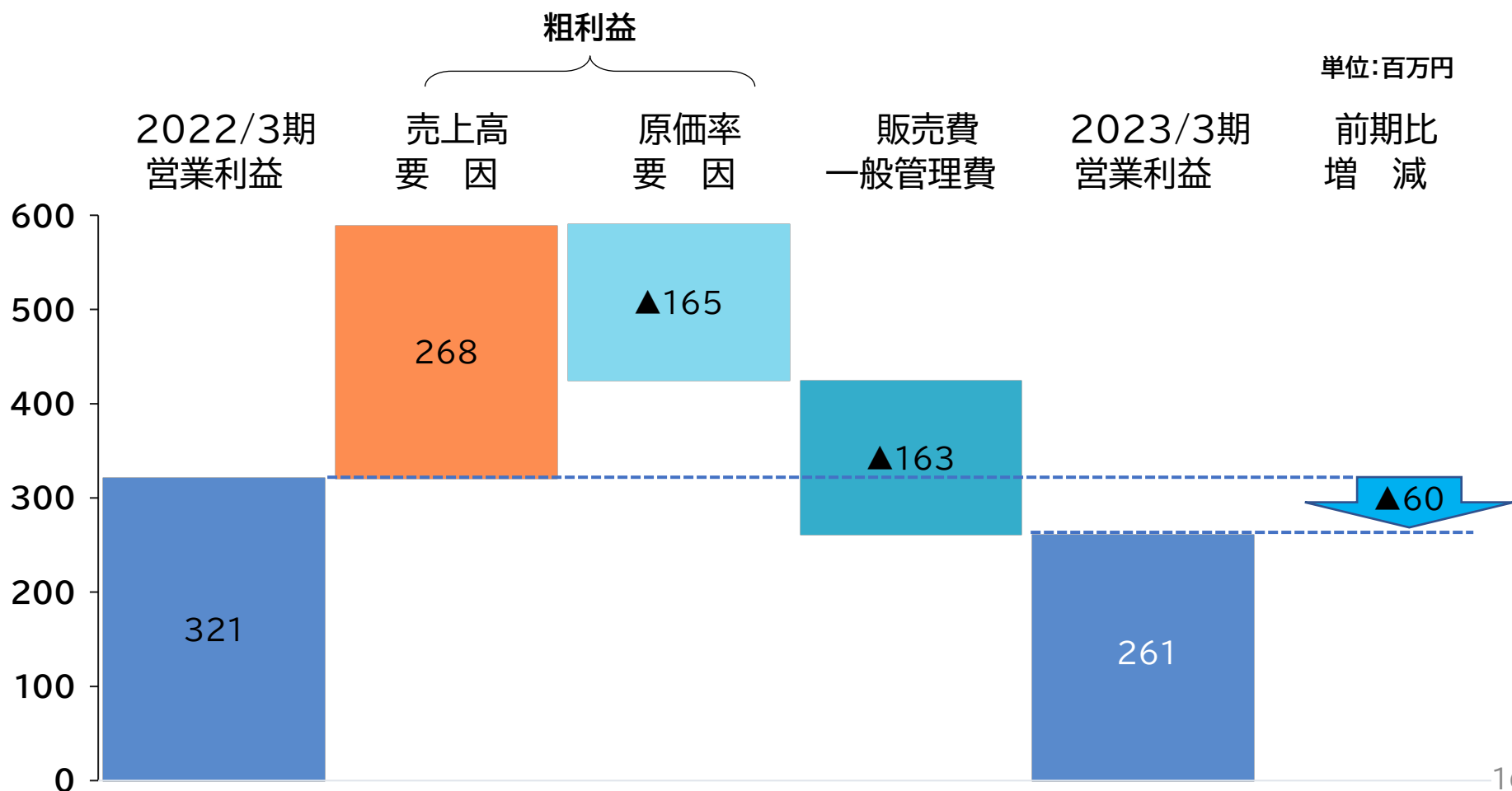
▶ 工事施工については受注高でコロナウイルス感染症各種制限の段階的な緩和により回復

単位:百万円



※収益認識会計基準等の適用により、工事施工の受注残高は3,385百万円から247百万円減少し、3,137百万円としております。

- 売上高要因については売上高増加(873百万円)の影響で268百万円増加
- 原価率要因については(71.7%→73.5%)1.8Pt悪化し、▲165百万円
- 販売費一般管理費については前期比増加により▲163百万円(クリステンセン・マイカイ社153百万円)



単位:百万円

科目	2022/3期末	2023/3期末	前期増減額
資産の部			
流動資産	6,369	7,409	1,040
固定資産	5,260	5,478	217
資産合計	11,629	12,887	1,258
負債の部			
流動負債	4,487	3,634	▲853
固定負債	2,551	4,556	2,005
負債合計	7,038	8,190	1,152
純資産の部			
株主資本合計	4,700	4,808	108
その他の包括利益 累計額合計	▲137	▲111	26
非支配株主持分	28	—	▲28
純資産合計	4,591	4,697	105
負債純資産合計	11,629	12,887	1,258

売上債権444百万円
棚卸資産600百万円

設備投資 303百万円
のれん計上 231百万円
減価償却▲228百万円

短期借入金※1
934百万円
仕入債務▲501百万円
伊勢原工場関連支払で
▲1,444百万円

長期借入金
1,869百万円
(シンジケートローン
借入等)

配当金支払
▲84百万円
当期純利益※2計上
185百万円

※1 1年内返済予定の長期借入金含む ※2 親会社株主に帰属する当期純利益

単位:百万円

科目	2022/3期	2023/3期	前期増減額
営業CF	142	▲610	▲753
投資CF	▲1,359	▲1,690	▲331
財務CF	1,053	2,382	1,329
現金等期首残高	1,387	1,223	244
現金等期末残高	1,223	1,304	80

当期純利益※計上
275百万円
仕入債務の減少額
▲739百万円

伊勢原新工場関連
▲1,531百万円

投資CFの内訳

項目	金額
有形・無形固定資産の取得による支出	▲1,620
無形固定資産の売却による収入	695
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	▲849
その他	83
投資CF合計	▲1,690

長期借入れによる収入2,375百万円
長期借入金の返済による支出▲346百万円
配当金支払額 ▲84百万円

クリステンセン・マイカイ社
181百万円含む

※税金等調整前当期純利益

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2023年3月期決算概要
4. 2024年3月期業績予想
5. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の進捗
6. 中期経営計画最終2025年度見込

■2024年3月期については

- ◆ 受注好調な既商品に加え、驚搦(RHS)等 新製品の拡販
(2023年3月期は4月・5月にて出荷停止の影響あり)
クリステンセン・マイカイ社の売上高が12か月分寄与(約20億円)
- ◆ 2023年3月期は4か月分のみ(6億円)

単位:百万円

	2022/3期		2023/3期		2024/3期	
	実績	実績	前期比	予想	前期比	
売上高	7,339	8,213	+11.9%	10,000	+21.7%	
営業利益	321	261	▲18.7%	700	+167.7%	
経常利益	310	157	▲49.4%	580	+269.1%	
当期純利益 [※]	293	185	▲36.6%	350	+88.3%	
1株純利益(円)	34.47	22.03	▲36.1%	41.46	+88.2%	

※当期純利益:親会社株主に帰属する当期純利益

<ボーリング機器>

- 売上高 : 新製品の拡販、海外案件の拡充
- 利益 : 原価管理の強化、販売費一般管理費の部門別予算管理の実施

単位:百万円

	2022/3期		2023/3期		2024/3期	
	実績		実績	前期比	予想	前期比
売上高	4,144		4,956	19.6%	6,640	34.0%
セグメント利益 (営業利益)	105		44	▲58.3%	365	729.0%

<工事施工>

- 売上高 : 北海道新幹線延伸工事や高速道路整備工事などの継続、リニア中央新幹線、温泉・地下水が更なる受注増を見込む
- 利益 : 販売費一般管理費の部門別予算管理の実施

単位:百万円

	2022/3期		2023/3期		2024/3期	
	実績		実績	前期比	予想	前期比
売上高	3,195		3,257	1.9%	3,360	3.2%
セグメント利益 (営業利益)	214		214	▲0.1%	335	56.4%

新製品については驚掴 RHS等の市場投入が遅くなった事により2023/3期の実績では0.2億円に留まるも、2024/3期は大幅増加を見込

	2023/3期 実績	2024/3期 予想	備考
機械本体 (新製品)	22.1億円 (0.2)億円	24.6億円 (2.0)億円	標準機 (驚掴 RHS等)
部商品	21.3億円	22.0億円	特機、開発機・海外製品 グループ会社とのシナ ジー効果も考慮
クリステンセン・ マイカイ社	6.1億円	20.0億円	グループ会社 2023/3 期は4か月分決算数値
売上計	49.5億円※	66.4億円※	
営業利益	0.4億円	3.6億円	
営業利益率	0.9%	5.5%	

※ 連結調整・億円未満の端数処理を含むため本資料
のみの合計では合計値と一致しない場合があります

注)ミュージアム鉦研除く

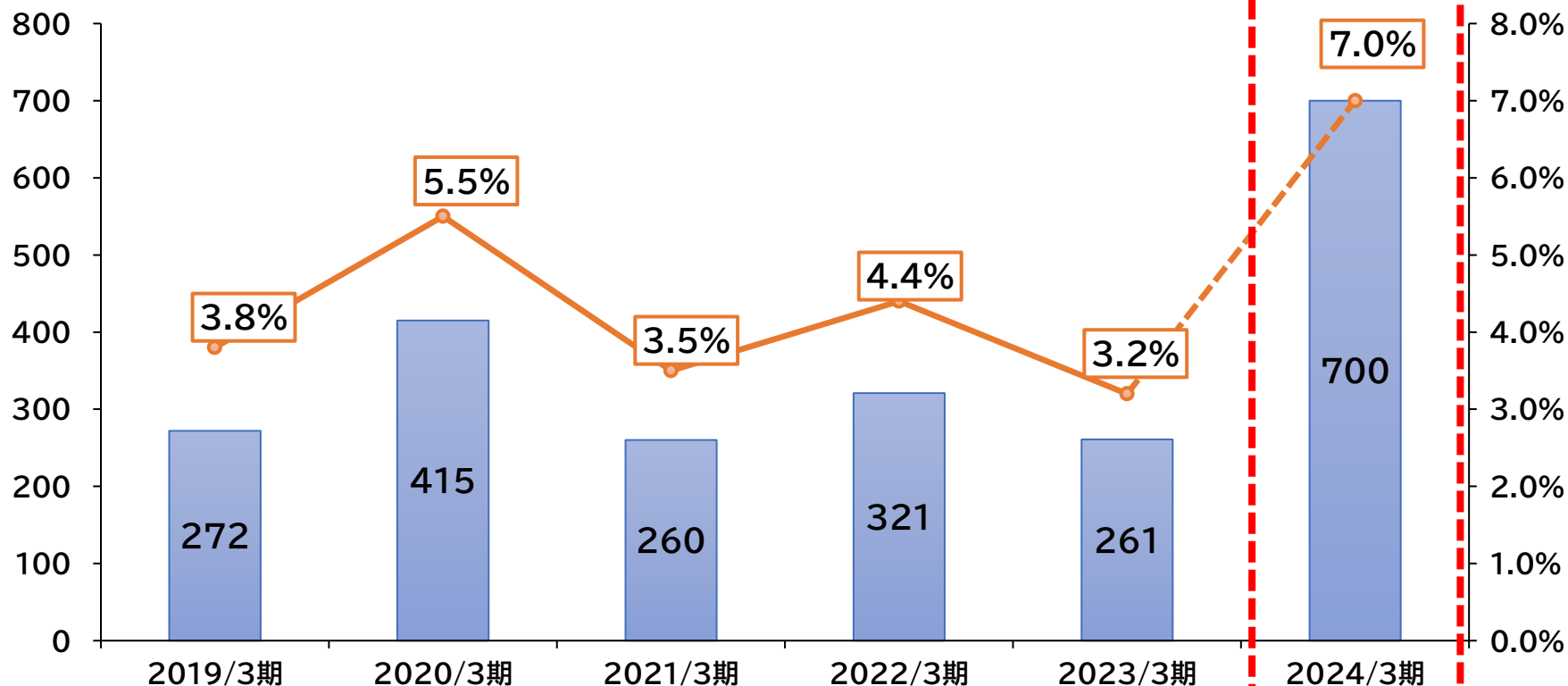
	2023/3期 実績	2024/3期 予想	備考
トンネル・BM・コントロールボーリング工事	18.8億円	14.1億円	BM工事等の大型工事減
地下水・温泉工事	5.6億円	9.2億円	コロナウイルス感染症第5類移行によりインバウンド回復を見込
その他(国内工事)	0.1億円	2.2億円	
海外工事	0.0億円	1.0億円	
構造工事社	7.9億円	7.0億円	グループ会社
売上計	32.5億円※	33.6億円※	
営業利益	2.1億円	3.3億円	
営業利益率	6.6%	10.0%	

※ 連結調整・億円未満の端数処理を含むため本資料のみの合計では合計値と一致しない場合があります

営業利益は、2024/3期については営業利益700百万円・営業利益率7.0%を見込

営業利益(百万円)

営業利益率



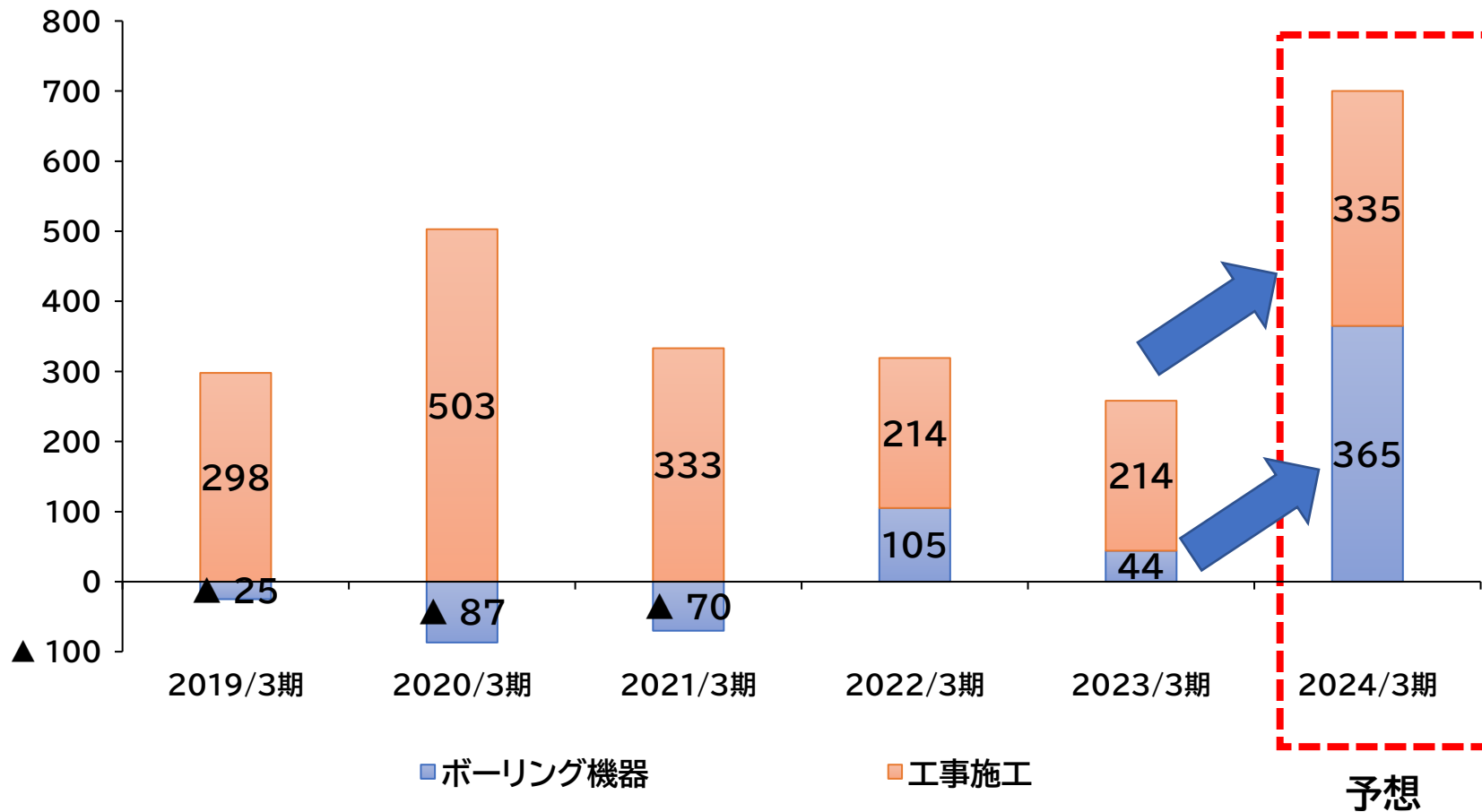
■ 営業利益

● 営業利益率

予想

- ボーリング機器 365百万円、前期比 320百万円増加予想
- 工事施工 335百万円、前期比 120百万円増加予想

セグメント利益(百万円)

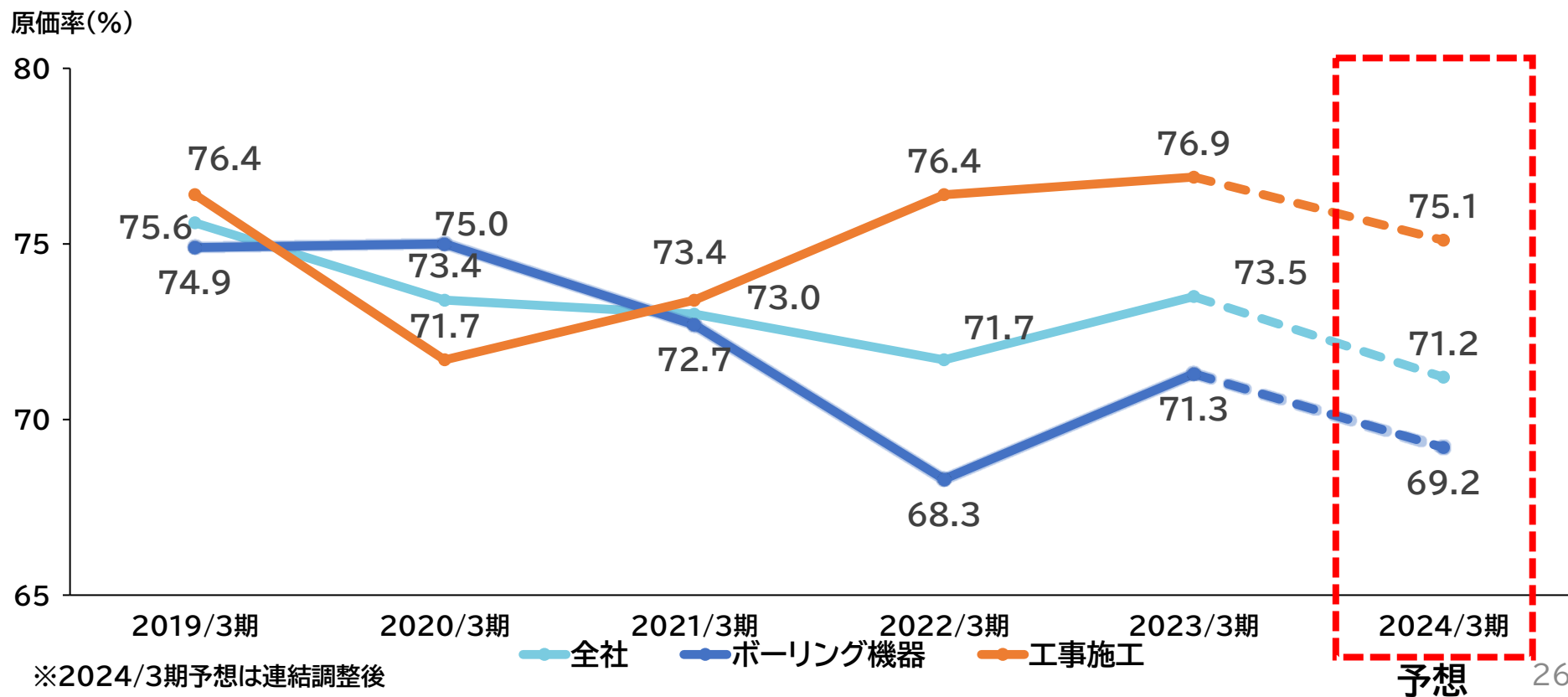


- ボーリング機器の原価率は69.2%(売上高は34.0%増加を見込み、原価率は前期比2.1pt改善予想)

➢ 計画生産開始(一部機種)と専門家の意見を交え原価管理の可視化・効率化を図る

- 工事施工の原価率は75.1%(売上高は3.2%、原価率は前期比1.8pt改善予想)

前期の地下水・温泉工事の孔内トラブル事象の再発防止に努める



- 2024/3期(予想)は中国案件の増加もあり海外売上高合計で400百万円増加予想
 - ▶ ボーリング機器:中国案件もあり前期比300百万円増加予想

単位:百万円

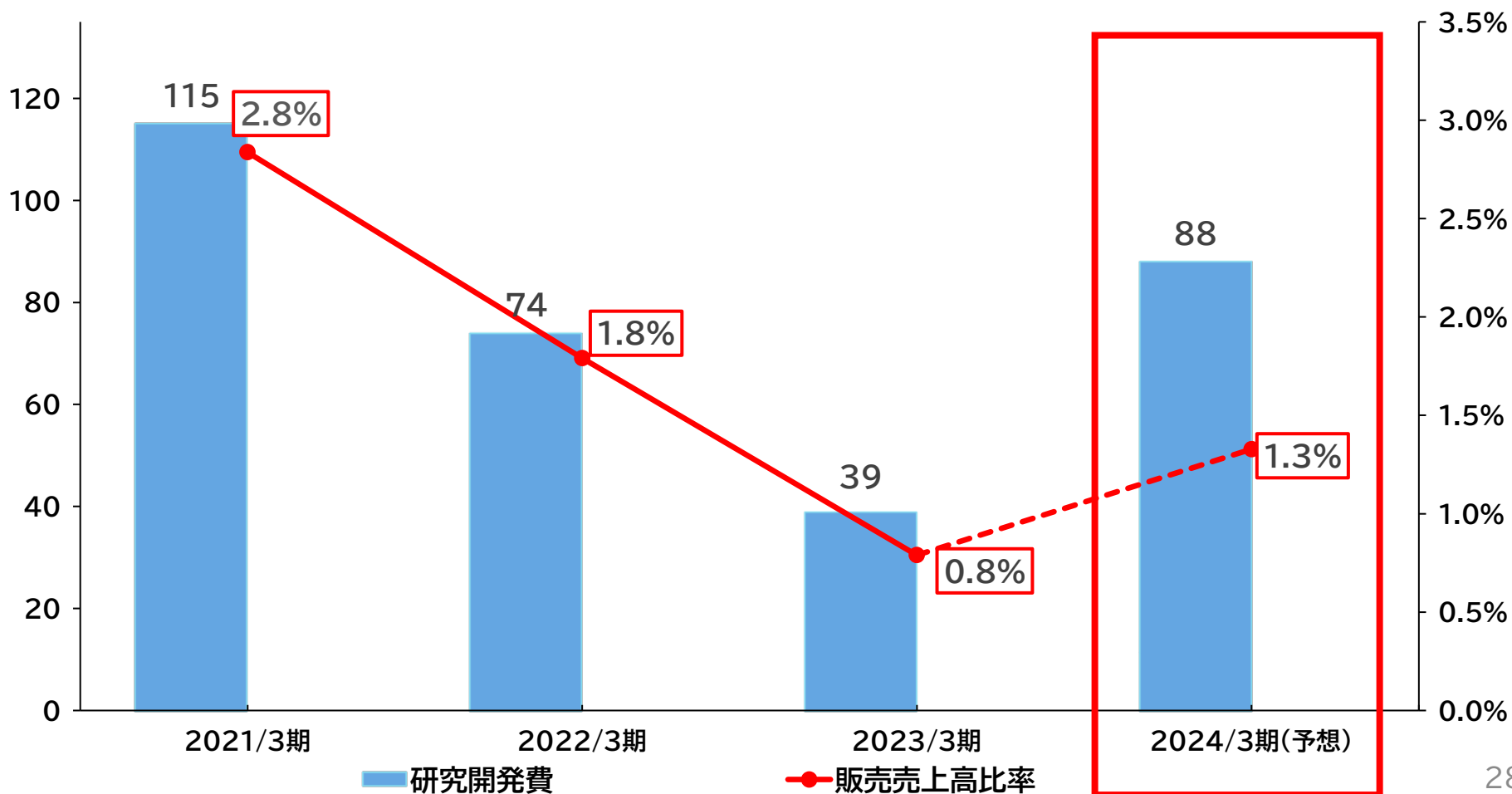
	2022/3期 実績	2023/3期		2024/3期(案)	
		実績	前期比	予想	前期比
国内ボーリング 機	3,786	4,706	24.3%	6,088	29.4%
○ 海外ボーリング 機	357	252	▲29.5%	+300 552	118.8%
国内工事施工	3,089	3,255	5.3%	3,260	0.1%
○ 海外工事施工	105	0	—	+100 100	—
売上高合計	7,339	8,213	11.9%	10,000	21.7%

■ 新機種開発は減少するも自動掘削機等で増加予想

2023/3期も引き続き新機種開発に注力

研究開発費(百万円)

販売売上高比率



株主への利益還元と健全な財務基盤の確立、成長投資のバランスから配当性向30%程度とする方針に基づき、2024/3期における配当1株当たりを12円を予想

	2021/3期 実績	2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 予想
1株当たり配当金	10.00円	10.00円	8.00円	12.00円
1株純利益	93.22円	34.47円	22.03円	41.46円
配当性向	10.7%	29.0%	36.3%	28.9%

当社グループではROEを重要指標として位置付けて、当面のROE目標を8.0%にしております。

	2021/3期 実績	2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 予想
ROE(%)	19.6%	6.4%	4.0%	7.0%

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2023年3月期決算概要
4. 2024年3月期業績予想
5. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の進捗
6. 中期経営計画最終2025年度見込

7つのKeyWordを基に戦略を遂行し定量面の計画を達成

A : Action (行 動)

C : Cost Reduction (コスト削減)

T : Topical Production (話題性のある製品・部商品の開発)

I : Initiative Marketing (創造性のある営業活動)

O : Organization Reactivation (組織の再活性化)

N : New Managing Strength (新しい経営体質)

S : SDGs (持続可能な開発目標の達成)

ACTIONS 2025の取り組み

ACTIONS

Actions(行 動)

成果と今後の計画

伊勢原工場の稼働開始による生産性向上

クリステンセン・マイカイ社の子会社化

今後は各部門へのKPIを導入し、目標達成意識の向上

ACTIONS

Cost reduction(コスト削減)

成果と今後の計画

過去の実績も踏襲し、製造本部での計画生産の開始により原価低減、在庫抑制に繋げる

ACTIONS 2025の取り組み

<p>ACTIONS</p>	<p>Topical production (話題性のある製品・部商品の開発)</p>
<p>成果と今後の計画</p>	<p>驚擱等の開発完了(一部製品販売開始) 2024/3期は販売本格化</p> <p>今後は海外業者との提携を行い、海外市場も広げる</p>
<p>ACTIONS</p>	<p>Initiative Marketing (創造性のある営業活動)</p>
<p>成果と今後の計画</p>	<p>ハンドリング装置の拡販に向けてブランドストーリー、 鉾研スピリット3S(SAFTY, SAVE, SATISFACTION)</p> <p>メンテナンス体制確立により顧客の信頼度醸成とともに メンテナンス収益向上、営業事務の効率化を狙う</p>

建設業界の3K(きつい、汚い、危険)撲滅

きつい

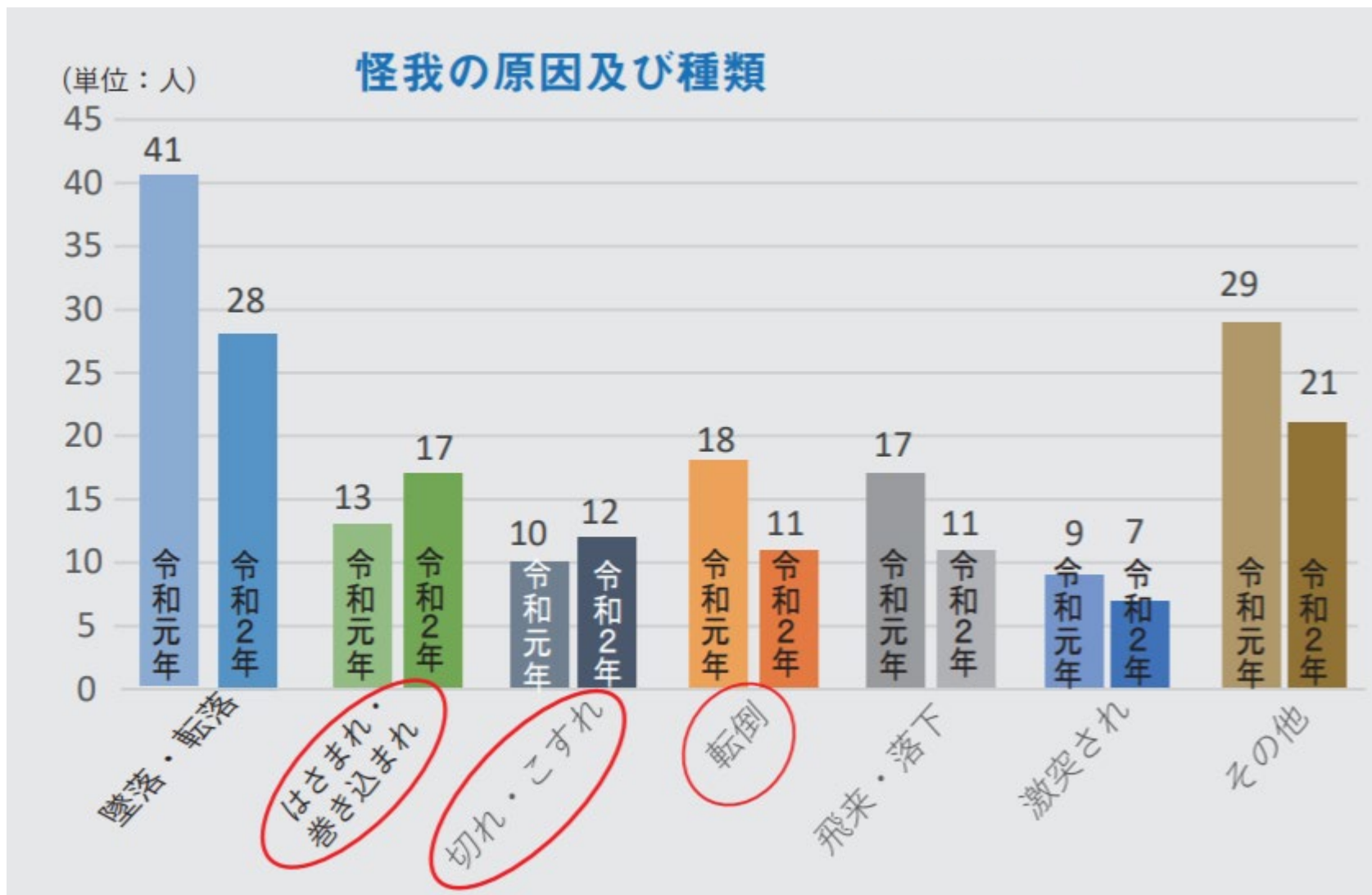


汚い

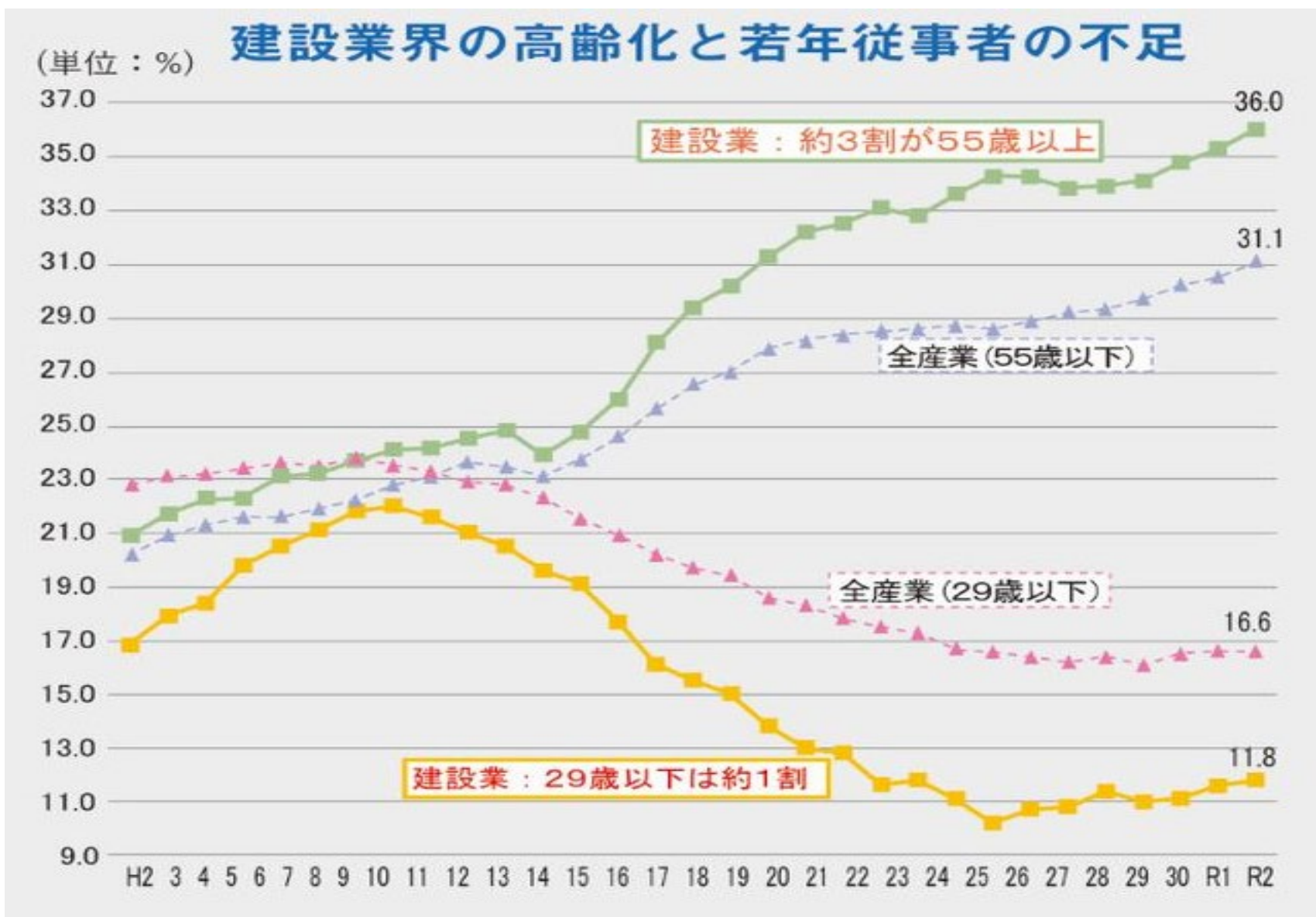


危険





出典：国土交通省





作業員 1 名分の経費削減



捲込まれ注意箇所

指つめ注意箇所

人力で把持
から
機械で把持へ



無線遠隔操作式ドリルロッド着脱

ACTIONS 5か年計画の売り上げの中核となる、製品企画委員会プロデュースによる新製品が2023年から順次ロールアウトしています。



鉦研スピリット3Sとは、
 ・安全、安心 = Safety
 ・省力化 = Save
 ・顧客満足 = Satisfaction
 という鉦研製品の開発テーマです。

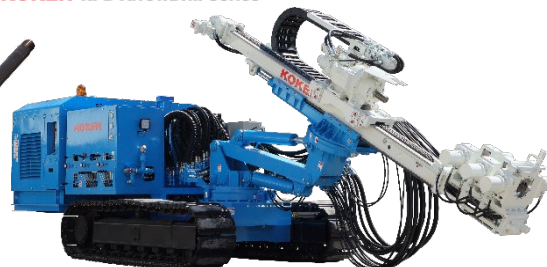
KOKEN
二重管ハンドリングシステム **RHS-1B**



KOKEN
二重管ハンドリングシステム **RHS-2**



RPD-70C-DFC



- ① RHS-1 鷲掴壹号
- ② RHS-2 鷲掴貳号
- ③ RPD-70C-DFC 雷穿

ACTIONS 2025の取り組み

<p>ACTIONS</p>	<p>Organization reactivation (組織の再活性化)</p>
<p>成果と今後の計画</p>	<p>伊勢原工場稼働(2022年6月)と諏訪工場の活用により計画生産開始</p>
	<p>社内意見箱も導入により風通しの良い社風づくりと業務改善PDCAの早期化実現</p>
	<p>ジョブ公募制度導入による組織活性化</p>
<p>ACTIONS</p>	<p>New managing strength (新しい経営体質)</p>
<p>成果と今後の計画</p>	<p>サクセッションプランニングの導入準備</p>
	<p>クリステンセン・マイカイ社とのシナジー効果を発揮</p>
	<p>社内DX化を浸透させ更なるシステムの統合を計画</p>

ACTIONS 2025の取り組み

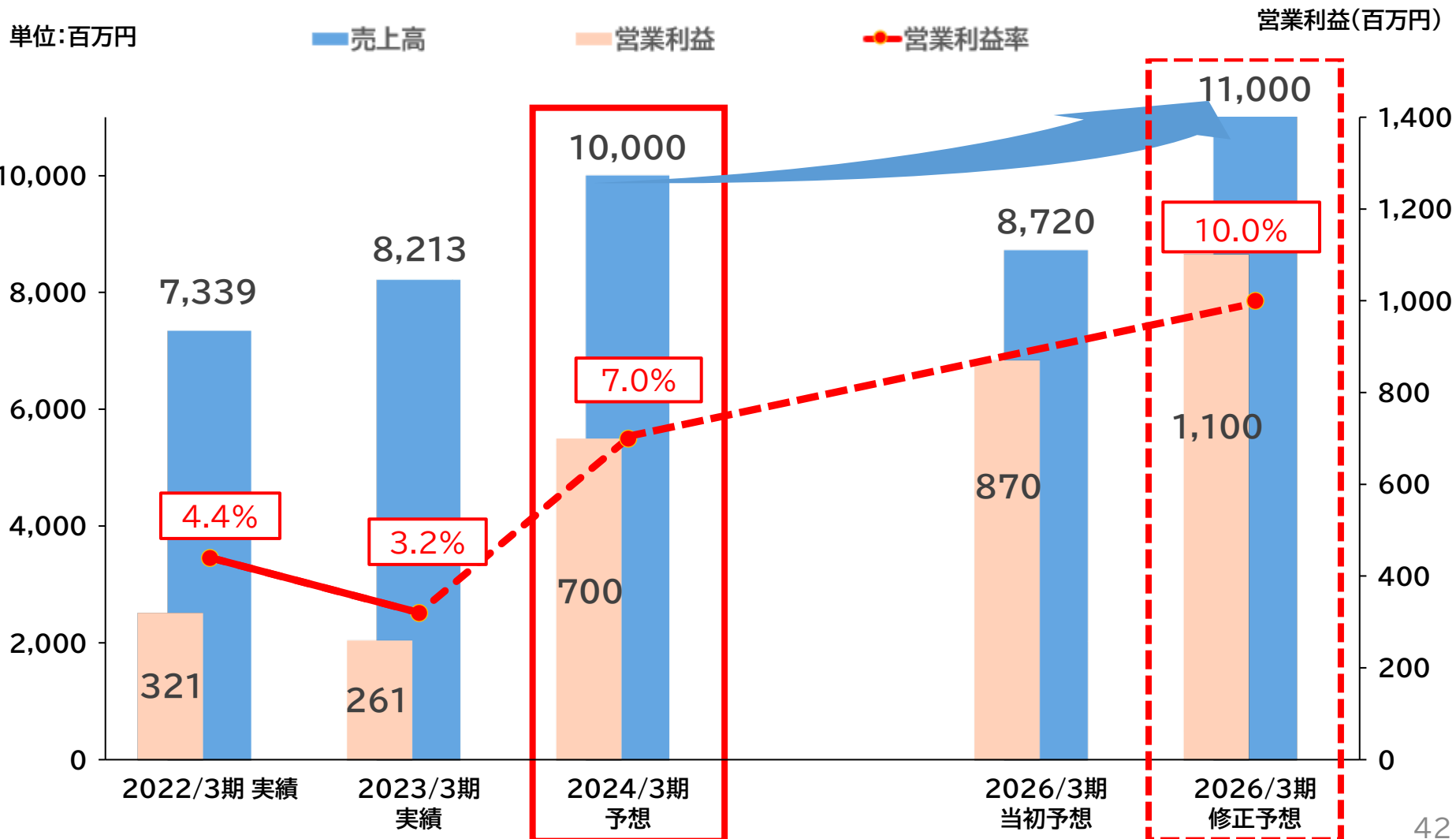
ACTIONS	SDGs (持続可能な開発目標の達成)
成果と今後の計画	伊勢原新工場をRE100にて稼働開始
	今後はクリステンセン・マイカイ社も含めた当社グループ全体でのRE100化・CO2排出量算定を実施

持続可能な世界の実現のための17のゴール、169のターゲットから当社の事業活動が貢献できる課題を抽出し、取り組んでまいります。

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 2023年3月期決算概要
4. 2024年3月期業績予想
5. 中期経営計画『STEPUP 鉦研 ACTIONS2025』の進捗
6. 中期経営計画最終2025年度見込

中期経営計画目標(修正)

- 株式会社クリステンセン・マイカイの子会社化により2026/3期は当初予想より売上高+2,280百万円、営業利益+230百万円へ上方修正
- 営業利益率を3.2%から10.0%へ



社 是

ONE & ONLY の技術構築のために前進

経営理念

顧客の安心を以て信頼を得、
全社員とその家族の幸福を追求し、
地球と社会に限りなく貢献する会社となる。

(PEOPLE) (PLANET) (PEACE) (PROSPERITY)
(PARTNERSHIP)

当社のパーパス(企業の存在意義)

「地下を活かし」

「地下と生きる」

「持続可能な**こうけん**を」

「**地球に**」





将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。
無断転載を禁ずる。